

だから私は府職労

(1面からのつづき)



奥成良平さん
(社会福祉職)

中央子ども家庭センター一時保護所

私の働く一時保護所は、虐待や家庭の事情など様々な理由で保護が必要な子どもが入所してきます。そうした不安を抱えたまま入所してこる子どもの生活を支援してあげたい、と子どもたちの味方になって直接関わるところにやりがいを感じます。生活の支援を通じてアセスメントした情報を子ども家庭センターの担当者に伝えながら一緒に支援について考えていきます。一時保護所ではチーム

で入所している子どもに何か必要かを考えられることが最大の魅力だと思います。そのためには、子どもが安心して生活できる環境を整えることが必要であり、労働組合では、子どもの支援につながる職場の環境改善や人員配置などの要求を出しています。労働組合についてよくわかっていなかったので、府職員というのは、組織に属しており、その組織はみんなで作り上げていくものです。自分たちの組織をよりよく作り上げていく存在である労働組合に入ること、ごく自然なことかなと思います。

2018年度要求書交渉

府職労 時間外勤務なくせ、人員配置計画の見直し増員へ

府職労は3月29日、要求交渉を行いました。回答全



般では、「努力する」という回答が多く、引き続き、改善を求めるとともに、労使で必要な協議をすることを確認しました。賃金要求では、ベテラン職員から、「若手が多くなると、指導に手間暇かかるが、その割に若手の方が評価は高く、(ベテランは)賃金は変わらない」と訴えました。評価制度については、「職員条例があるからではない、それを見直すこ

間の職員の頑張りに応える

府職労「住民団体との住民要求懇談会」

住民の思いや要求の届く府政の実現を

大阪府への怒りや不満、府職労への要望次々

3月21日(祝・水)、エル・おおさかにおいて、14の住民団体の参加のもと、住民団体との住民要求懇談会を開催しました。有田委員長から2018年度当初予算案の概要と大阪府財政の現状についての説明と、保健所支部、病院労組から職場実態についての報告を行い、経済活性化の名のもとに大規模なインフラ整備を優先しようとしている今の府政の方向性や、過密労働で疲弊しながらも府民や患者に寄り添い懸命に働く職員の現状について、認識を深めあいました。

府政の現状を知らせる府職労自治研究会成功を

そのあと、府職労地方自治研究会(以下、自治研)の発行委員会を兼ねた基調報告にて、自治研のコンセプトや開催概要及び今後の大まかなスケジュールについての説明とフリートークを行い、自治研の成功に向けて取り組みを進めていくことを確認しました。各団体よりいただいたアンケートには、「各団体の情報を交流することができてよかったです」「自分の団体と直接関係する支部の方と情報交換を行いたい」などの意見が寄せられ、お互いの活動内容や

続いて各住民団体より活動報告をいただき、活動を通じて感じた大阪府に対する



青年部 青年層の大幅賃上げ 「奨学金」制度の充実を



2月19日に当局へ提出した要求書に基づき、青年部では3月29日に交渉を行いました。

のか青年部でも調査を進め、来年度の要求書へ活かしたいと気持ちを新たにしています。青年部では、「奨学金ヒアリングシート」を作成し、奨学金制度の充実に向け、みなさんからの声を集めています。私たちは、青年・若手の労働環境の充実に向け、これからも全力で奮闘していきますので、今後ともよろしくお願ひします。

りかことたいちの職場訪問

こんなところにも組合員①



大阪府とその関係職場(府立病院や研究所など)は府内全域に職場があり、そこではさまざまな職種の職員がその専門性を発揮して仕事をしています。この連載では、いろんな職場でがんばっている組合員を訪問し、仕事の内容ややりがいをインタビューします。

大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター(泉南郡岬町) 主任研究員 大美 博昭さん 技術職 田中 咲絵さん



稚魚を調査するための網の説明をする大美さん

大阪の南端で漁業振興を支える研究所

大阪市内から南海電車で1時間、そこからバスに乗ってたどり着いた海辺に府立環境農林水産総合研究所(環境水研)水産技術センターはあります。晴れた日には明石海峡大橋も見え、美しい夕日も見える研究所です。ここでは研究員5人と技術職員2人、船長2人と非常勤職員が、大阪湾の環境を守り、漁業の振興を支えるためにがんばっています。大阪市内から毎日2時間かけて通勤し、大阪の南端にイカスファンという大美さんは、水産支援グループで、魚やプランクトン、海水の採取や調査、研究所で



大阪湾の水質の成分を分析している田中さん

育った魚の放流などを行い、漁師さんとも連携し、大阪湾の魚を増やすため日々頑張っています。休みの日には、地元の温泉に通って疲れを癒しているという田中さんは、海水の温度や水質などの調査・分析などの仕事を担っています。

研究員も受け付けていて、社会見学などでたくさん的小学生が見学に来るので、ヒトデやナマコ、かわいいうちも育てています。研究所には「おおさか」という19トンの調査船もあります。今回の取材を通じて、職員のみならず「魚がたくさん獲れる美しい大阪湾を」という強い思いや熱意、そのための懸命な努力が伝わってきました。

【取材：府職労書記 越智太一】